
孤島

シャークスピア

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

孤島

【Nコード】

N2350B

【作者名】

シャークスピア

【あらすじ】

僕は海岸でふと目が覚めた。しかし、記憶なかった。そんな僕が旅を始める

記憶喪失の僕の旅（前書き）

初心者です（汗）下手でも勘弁して下さい

記憶喪失の僕の旅

波の音が聞こえる。

ギラつく太陽が僕を照らし目を覚ました。

僕は海岸の砂浜にいた

見た事のない光景だ。

しかしそこは波がおだやかで、陸にはヤシの木が連なり道路があった。

しかし人影はなく　とても静かだった。

僕は何故ここにいるのか、わからなかった。

それだけではない。

自分が誰なのか、どこに住んでいたのか、全く覚えてなかった。

僕は誰か人がいないか、道路に出てみた。

すると向こうから誰かが歩いてきているのに気がついた。

しかし逆光で影しか見えなかった。

僕はその影に

「おい！」

と手を振りながら歩き始めた。

しかし近づくにつれてその異変に気付いた。

肌の色が緑なのだ！

しかし、確かに姿形は人間であった。

するといきなり

「グエエエエッ！！」

と奇声をあげながら襲いかかって来た。

しかし次の瞬間その生物は泡をふいてアスファルトの上に倒れていた。

どこで覚えたかはわからなかったが、僕は確実にそいつを倒していた。

そして僕はアスファルトの上をどこに行くともなくただ歩き続けた。しばらくするとアスファルトの塗装はなくなり山奥へ入って行った。

何時間歩いただろうか辺りは暗くなり、怪しい鳥の聲が僕の周りを包む。

すると前方に洞穴のようなものが見えた。

僕は吸い込まれるように入ってしまった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2350b/>

孤島

2011年1月2日03時09分発行